

平成26年度 事業報告

[会 勢]

1 会員数

期首(4月 1日)	148会員
期末(3月31日)	152会員

2 会費口数

期首(4月 1日)	875口
期末(3月31日)	894口

3 役員

理事14名(うち 会長 1名、副会長 2名、常務理事1名)
監事 2名

4 職員

事務局長(常務理事兼務) 1名、総務班 1名、じん芥処理班 7名、

5 主要施設

施設名	形状寸法等	数量	摘要
(1) 設備			
第一清港丸	木造船 4.8トン	1隻	川崎市より無償貸与
つばき	鋼船 13.0トン	1隻	〃
陸揚げクレーン	2トン吊	1基	〃
油回収装置		1式	〃
フォークリフト	2.38トン積み	1台	清港会所有
(2) 土地・建物			
土地		2,163.048㎡	川崎市より無償貸与
管理事務所	鉄骨造平屋建	56.33㎡	〃
作業員詰所	鉄筋コンクリート造2階建	133.46㎡	〃
焼却炉建屋	鉄筋スレート葺き平屋建	219.30㎡	〃
誘引通風機室建屋	コンクリートブロック造平屋建	32.00㎡	〃
燃料庫建屋	コンクリートブロック造平屋建	9.93㎡	〃

〔 事 業 〕

本会は、川崎港内における漂流物等の除去、及び環境保全の啓発等を行うことにより、海面を良好な状態に維持し、もって船舶の航行安全、公衆衛生及び環境保全の向上に寄与するため、次の事業を行った。

1 海面の清掃

川崎市から委託された海面清掃船「つばき」及び「第一清港丸」の2隻体制で、平日の午前午後の各一回、川崎港内の16運河と多摩川、及び東扇島の防波堤内と東公園沖を巡回すると共に、川崎市や海上保安本部、会員企業などからの通報にも対処し、じん芥や流木等の収集を行った。

平成26年度の収集実績は表1のとおりであるが、台風の影響等がほとんどなかったが、前年度を少し上回った。

表1. 平成26年度 じん芥収集実績表

月 別	稼働日数	稼働人員延数	じん芥収集量	摘要（産廃等）
4	21日	131人	16.25 m ³	発泡スチロール
5	20	78	20.75	
6	20	116	74.75	
7	22	137	49.25	ポリタンク等、セーフティーコーン
8	20	123	36.50	発泡スチロール多数
9	19	114	30.50	発泡スチロール
10	21	101	69.25	発泡スチロール
11	18	63	56.75	
12	15	94	8.50	発泡スチロール
1	19	88	17.00	ブルーシート
2	18	115	9.25	
3	22	126	14.00	
合 計	235日	1,286人	402.75 m ³	
25年度	227日	1,264人	334.75 m ³	

注) 塵芥収集量の中に流木を含む

ドック入り期間 「つばき」 10/20～11/25

「第1清港丸」 12/22～1/20

その他

「つばき」 4/24～5/20 油圧系統修理の為未出航

2 流出油の事故処理

本会は、「川崎管内排出油等防除協議会」に参加し、協議会や川崎市の出動要請に対応している。

平成26年度は、流出油等の事故処理のための出動要請は無かったが、海面清掃船「つばき」に油回収装置を搭載して稼働させる訓練を3回行い、即応態勢を整えた。

3 環境保全の啓発

(1) 「海を守る月間」

7月に行われる「東京湾クリーンアップ大作戦」推進会議に参加し、海面清掃船2隻に「海をきれいに安全に」の横断幕を掲出するとともに、詳細な収集データを提供した。

(2) 「清港会独自キャンペーン」

8月に当会の独自キャンペーンとして、「きれいな海を未来の子どもたちへ」を合言葉に、

- ①清港会作成のポスターを、川崎市営バス塩浜営業所管内の路線バス車内に掲示するとともに、会員各位に配布した。
- ②海面清掃船2隻に横断幕を掲出した。

(3) 「川崎みなと祭り」参加

10月11日・12日、川崎マリエン前広場に川崎清港会のブースを設け、清港会の活動状況を紹介した。また、清港会職員が操船時などに使用しているロープワークを日常生活や火災、地震発生時等に応用できるよう市民を対象に「ロープワーク教室」を開催した。

(4) 事業活動見学会

川崎市や「川崎みなとガイド協会」等が行う川崎港見学の一環として、清港会の海面清掃船の活動状況や、収集したじん芥・流木の状況説明を行い、特に収集量の多いビニール袋やペットボトルの投げ捨て防止をアピールした。

(5) 川崎マリエンでの啓発展示

公益社団法人川崎港振興協会との協働で、清港会の活動紹介や川崎港の環境保全への理解を市民に深めてもらうための展示を川崎マリエン2階に於いて行った。

4 その他

新規会員の獲得に努め、9団体が加入した。